

認知症コラム



認知症の方のご家族のお話 Oさん

認知症の方のご家族のOさんに、認知症に関する思いを投稿していただきました。

夫が脳梗塞になり、傷ついた脳の影響はいずれ認知症になると医師から告げられていました。脳梗塞発症直後は、平仮名が裏返しになったり、簡単な計算が出来なくなったり、本人が異常に気付き、夫婦で訓練して克服しました。

5～6年経つと不安感に苦しむ事が出てきて、手の震えで文字が書きにくくなりました。それでも訓練して何とかノートに学習内容を書いていました。

その後、8年位すると位置感覚が分からなくなり、危ないので車の免許証を返納しました。さらに、記憶障害が出始め、同じ内容の話をしたり、人の話を理解出来なくなったり、理解しようと私に何度も確認するようになりました。

辛い状態に苦しんでいるのは本人ですから、私はどんな状態でも、何度でも状態が悪化していることを本人に話すようにしています。

周囲の親しい仲間にも説明して理解を求めています。接し方は人それぞれで、病気前と変わらない気持ちでは接していただけません。そのことで、そばにいる私が辛い思いをすることがあります。病気である、と考えていただけるとありがたいです。

認知症のきっかけはひとそれぞれで、認知機能障害は一人一人違うのですが、病気であると思います。患っていても幼児返りしたわけではないので一人の人として、接していただきたいと思います。

問い合わせ先:健康長寿課 介護予防係 (046-822-8135)